

日本YMCA中期計画（2021-2023）

日本のYMCAは、2014年、ブランディングという手法を用いて選ばれるYMCAを目指し、「日本YMCA同盟中期計画（2014-2016）YMCAブランドの再生」を策定した。2016年にはブランドコンセプトを取り決め、2017年には、「日本YMCA中期計画（2017-2020）YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ」に基づき、新しいロゴとスローガンを社会に向けて発信し、事業への展開、次世代のリーダー養成、マネジメント強化と組織変革、ユースエンパワーメントなど6項目にわたり進めてきた。

しかし、「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことを決意してたゆまず進んできた私たちは、もっとも大切な人のつながりが絶たれるという未曾有の事態に直面することとなった。いま、歴史的な世界同時パンデミックによってもたらされた世界規模の危機のなかで、YMCAは存在意義の危機、存続の危機の中にいる。社会の様々な厳しい現実を目の前に、YMCAのブランディングの内実が激しく問われている。その自覚を持って「あなたは誰の隣人になっているのか」という問いに答えることがなければ、たとえ経営再建をなしえたとしても、それは財政の回復であって、YMCAの再建ではない。社会の回復に仕えるYMCAの回復が、財政再建の道でもあるという確信をもって、インクルーシブな社会を実現するためにYMCAブランドを再創造していかなければならない。

まさにYMCAは闇ともいえるべき状況の中で、分かれ道に立ち、新しい選択をしなければならない。ただ、わたしたちはミッションという一つの光を持つ。その灯心を消すことなく、世の光として高く掲げていくことをあらためて意識したい。この光を灯すYMCAの「A」（アソシエーション）に人々を招き、ポジティブネットを拡張するために、日本YMCA中期計画策定委員会では、以下の5つを方針として提示する。

この中期計画の具現化に向けて、年度ごとの計画立案のため、「日本YMCA中期計画推進委員会」の発足を提案する。世界YMCA同盟が方向性として示すレジリエンス、リカバリー、リイマジネーションへも連動し、世界の潮流における日本のYMCAの姿も見出していきたいと考える。

中道基夫（委員長）、山田公平、大森佐和、仲井間健太、田口努、横山由利亜

「光は暗闇の中で輝いている」

（ヨハネによる福音書 1章 5節）

1. Positive well-being

Positive well-being を提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。

2. Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

3. Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

4. Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。

5. Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agent (Global Servant)の育成に注力する。

1. Positive well-being

Positive well-being を提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。



YMCA の基本理念である Spirit・Mind・Body の育成と調和に Social（社会参画：つながりの中でよりよく生きる）という視点を加え、誰もが不安と喪失を抱える時代において人間性の回復と人と人との連帯によって培われる Positive well-being を、YMCA の健康理解として提唱する。

わたしたちの健康は、「わたしがよくなる」というビジョンと経験を持つ「わたし」を起点に、家族、友人、地域、コミュニティ、国、世界と同心円的な広がりに関係性の中で育まれていく。Positive well-being は、いま改めて、障がいや年齢、性別、人種、思想などあらゆる違いに目を向け、互いに心をひらき分かち合い、助け、助けられることによって育まれていくもので、よりよく生きる希望を灯す働きとなる。これは、キリスト教に基づく人間性の回復と、ポジティブネットという連帯の形成によって人びとと社会の健康を目指すものである。

世界同時危機において、子どもとその家族、若者が孤立や分断することなく、将来に夢をもち、生きる楽しさ、喜びを感じられるよう、ライフパートナーとして一人一人に伴走する全人一貫教育（全人的な生涯教育）に YMCA の「みつかる。つながる。よくなっていく。」体験・経験という強みを最大限に活かすことを基軸として、すべての事業・活動を再興する。

2. Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。



予測のつかない羅針盤のない世界において、正義感と時代を読む感性に突き動かされ行動し、新しい未来を創造していく姿はYMCA創設時の姿である。閉塞感のある若い世代が夢をもって、自己実現のために参画できる社会を創造できる機会を創り出していく。

また、新しいことにチャレンジしたいという若いスタッフ・リーダーが、歴史や慣習による「YMCAらしさ」や制度に縛られることなく、恐れず挑戦できる組織を作る。同時に、ユース世代の学びや生活の環境、メンタルヘルスについて注視し、支援していく。そして、YMCA は若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える「適応型 YMCA(Adaptive YMCA)」となることで持続可能となる道筋を求め、健全運営・健康経営を目指して行く。

3. Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。



テクノロジーの急速な拡大により、オンライン上で多様なコミュニティ(共同体)が生まれ、より手軽にグローバルな規模で、学校、職場、家庭ではない自己実現や社会参画が可能となっている。YMCA はオンラインを健全かつ建設的に活用し、生きる喜びにつながるテーマや社会課題でつながるコミュニティ(共同体)創造のインクルーシブなプラットフォームとなる(ymca.positive.net 構想)。

身近な興味関心や悩みには社会を動かす多様な視点が包含され、オンラインでの伴走とオフラインでの実行力を掛け合わせたコミュニティ活動は、多様性と包摂性のある社会創造につながる。



同時に、テクノロジーを取り入れて業務の合理化・効率化を図るとともに、地域のデジタル格差による学び、健康、経済活動などの機会損失について、事業・活動のオンライン化を可能な限り進め、支援を行っていく。

4. Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。



YMCA には地域社会の課題について、世界の持続可能な開発目標(SDGs)の健康、気候変動、平和、メンタルヘルス、ジェンダーなどの視点をもって解決できる資源が多くある。YMCA 単独ではなく、パートナーであるワイズメンズクラブ、そして目的を同じくする企業や行政、地域の諸団体と対等なパートナーシップを組み、それぞれの特性を生かして共に解決に臨んでいく。これは、関係性の中で YMCA の役割を見出し、地域・社会のレジリエンスを高めていく働きとなり、実践的なアドボカシーである。

目的が具体的で明確な社会課題解決活動、ダイナミックなパートナーシップは、理想を求める中学生・高校生など若い協力者に訴求し、テーマで協働する会員、ユースリーダーや学生 YMCA の活動の展開にもつながる。YMCA の社会貢献活動の資金的裏付けも明確となり、「寄附を受ける団体」として社会的認知度も向上する。



5. Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人一人がポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨み、Change Agent (Global Servant)の育成に注力する。



世界規模で社会的弱者のいのちが脅かされ、若者や高齢者、課題を抱える人たちが脆弱な立場に追い込まれている。自国の対策を優先させる中で、途上国の貧困対策、教育支援が大きく遅れている。また、世界的に民主主義の根幹が揺らぎ、一方で下からの変革を求めてゆく市民セクターの力が増している。

わたしたちのいのちが誰かのいのちや人権の犠牲の上に成り立つことがないよう、YMCAに関わる一人一人が足元のコミュニティで、そして世界で、見えざるものに想像力を向け、声なき声を聴き、YMCAがポジティブネットを届けるべき先を考え、行動していかなければならない。



また、若い人が将来の世界を背負うため、グローバル社会と環境の課題を深く理解し、解決していくために必要な教育や研修、実践の機会を作り出していく。YMCAのグローバルネットワークを生かし、世界中の次世代リーダーとの協働を通して複雑な課題を解決し、地域でも、世界でも活躍できる真の Change Agent (Global Servant)の育成に注力していく。

YMCAは、これからの3カ年、世界が同時期に直面するこの危機の中で事業を展開していかなければならない。それは変化の中で「私たちはだれであるか」を再発見し続け、答えのない問いに挑戦していく旅となるであろう。YMCAのミッションとこれまでのブランディングの歩みを礎に、まったなしで社会から求められる使命によって一致し、日本YMCA中期計画を推進していきたい。

第10回日本YMCA同盟協議会承認

公益財団法人 日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11

Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641